No 名称	場所	見どころ解説
⑨五智山乗福寺	中老田	天平11年（739年）婦中町長沢の各願寺仏性上人が支院として乗福寺を中老田に創建し五智如来を安置した。全盛時の各願寺は、末寺三千余坊を有し京都より鍛冶師などを呼び大鐘、鈴、仏具などを鋳造したとされ、鍛冶川、鍛冶浦という地名が残っている。 その後乗福寺は、万行寺、養田寺、正釈寺、光明寺、南之坊、北之坊などハか院が順次建立され790年にも亘って北陸有数の大寺院であったが天文7年（1538）神保と越後の長尾為景との争いに巻き込まれ灰燼に帰した。しかし90年過ぎた江戸時代、宝暦8年（1758）、現在の地へ移転し再建された。跡地では、土地改良事業の際に出土品が発見されたので「乗福寺跡地」の石碑が建っている。
⑩東嶽山本浄寺	東老田	天正14年（1586）梅沢町の海岸寺13世陽山文泰和尚の弟子、賀純和尚が師匠を開山とし以来子弟が連綿と法灯を守ってきている。 創建当時は、布教的な庵であったが、のちに篤志家の寄進にて大きな伽藍となり遠くからでも見ることが出来たとされ、現在、寺橋、観音屋敷などの地名からも広範囲な寺領地を有していたことが想像できる。 また観音堂に安置されている大悲正観音菩薩は、地元瀧脇家の祖先伝来の守本尊であったものを江戸時代の1790年頃、当寺に移したとされ、以来厨子を閉ざし、33年ごとに開帳されている。しかし文政5年（1822）に火災にあい観音堂を残して全焼したが、その後30年の年月を経て再建され現在に至っている。
⑪蔵地山圓楽寺	願海寺	圓楽寺の創建は、願海寺城の一家老「蔵地孫之進」が、城主寺崎民部左衛門、一族郎党の霊を弔うため真言宗の一宇を開いたことに始まる。その後、慶長19年(1614)嫡男「富太郎」が出家し空信と改名し、浄土真宗本願寺派、蔵地山圓楽寺として再発足する。元和9年（1623）現在地に移転し、現在第18代住職にいたる。 ご本尊阿弥陀如来像は、真宗寺院の本尊と形態が多少違っており、家老職であった蔵地家の念持仏でないかとされている。（「圓楽寺」縁起）。
⑫白鳥山長福寺	西二俣	長福寺創建の口伝に二説がある。もと源氏の閥族であった小坂義正ら4人が当地へきて村と長福寺を開いたという説と蓮如上人と深い関わりがある加賀二俣、本泉寺の役僧であった順正が創建し、以降二又であった地名が二俣になったという説がある。蓮如上人との関わりは、上人が加賀、越中での布教活動を盛んに行われ、当地を通られた時には長福寺によれ門徒らと手交された。蓮如上人に関する遺品が数々あったが現存するものは舊（旧）蹟碑と六字名号である。また梵鐘は、世界大戦の供出を免れた約500年前の長福寺第2世慶順の時代のものである。
⑬願海寺加茂神社	願海寺	・祭　神　賀茂別雷命 ・所在地　富山市願海寺 ・旧社格　村社 （歴史） 創建は不詳であるが、平安後期の11世紀ではなかろうかと言われている。 「若々しく、逞しい」神で五穀豊穣、商売繁盛などに御神聴されるとのことから信仰の厚い神様と言われている。 神社では、獅子舞、初詣、春秋祭礼、少年相撲などの奉納行事が多く賑やかに催されている。平成12年4月、拝殿、幣殿が再建された。

No 名称	場所	見どころ解説
⑭下村・加茂神社	下村	・祭　神　玉依姫命、賀茂建角身命、賀茂別雷命。 ・所　在　富山県射水市にある神社である。 ・旧社格　賀茂御祖神社領倉垣荘の惣社で郷社 （歴史） 社伝では、治暦2年（1066）に京都の賀茂神社から勧請されたと伝える。寛治4年（1090）、白河上皇の勅願により倉垣荘が越中国射水郡に設けられると、荘家がこの加茂神社に置かれた。境内に隣接して加茂遺跡があり、鎌倉期の居館跡が発掘された。荘域拡大に伴い、射水郡内各所に賀茂神が勧請された。 （祭事・無形文化財） 年間50回近くに及ぶ加茂神社の祭事は、荘園維持行事（勧農儀礼・貢納儀礼）の継承とおよび賀茂信仰にまつわる葵祭の移入という特徴がある。射水市加茂地区・倉垣小杉地区・柳瀬地区の3地区で祭礼を維持している。主な祭事は次のとおり。 ・1月1日:鯽分け神事（射水市指定無形民俗文化財） ・5月4日:やんさんま祭り（富山県指定無形民俗文化財） ・6月上卯日:御田植祭（富山県指定無形民俗文化財） ・9月4日:稚児舞（「越中の稚児舞」として国の重要無形民俗文化財に指定） （有形文化財） ・「獅子頭」2体（射水市指定有形文化財） （境内末社） ・貴布禰社・任海社・稲穂神社 （名所・旧跡） ・福王寺（旧・加茂神社神宮寺） 真言宗。木造不動明王立像（富山県指定有形文化財）・木造阿弥陀如来坐像（富山県指定有形文化財）・木造毘沙門天立像（富山県指定有形文化財）が安置。賀茂本地仏の聖観世音菩薩坐像も祭られる。
⑮北代・加茂神社	北代	・祭　神　賀茂別雷命 ・所　在　富山市北代中谷 ・旧社格　村社 （歴史） 天正年中（1573～92）神保氏張により勧請され、近郷33ヵ村総社となる。 寛永三年（1626）の牛ヶ首用水開設以来、牛が神社の護り牛となる。
⑯中老田・加茂神社	中老田	・祭　神　賀茂別雷命 ・所　在　富山市中老田 ・旧社格　村社 （歴史） 明治4年（1871）村の中心に現存していた山王社の西側、中老田加茂にあった加茂社を遷営された。 明治40年（1907）神明社3社と羽右衛門宮などを合祀して本殿、拝殿とも改築し現在に至る。 山王社は、村上喜左衛門が豊臣の武将であったが大阪城の落城により中老田に逃げてきて農民となり現在の地に鎮守の宮を建立したと言われている。 加茂社は、山城加茂社の荘園に建立された社で、勧請年月日は不詳であるが当時の神主、城石主亮が加茂社を創建したとされ城石姓は、その末裔である。

主催／呉羽山観光協会・「旧北陸街道を歩く」実行委員会
共催／北日本新聞社
後援／富山市・富山市商工会議所・富山市北商工会・呉羽懇話会・五福、桜谷、呉羽、長岡、寒江、老田、古沢、池多各自治振興会及び各ふるさとづくり推進協議会

問合せ先
富山観光ホテル　TEL 076-431-5551
「旧北陸街道を歩く」実行委員会事務局（山口）
TEL 076-436-0611
Eメール:i-yama51@pk.ctt.ne.jp

呉羽山観光協会・「旧北陸街道を歩く」実行委員会

第7回歴史探訪歩行会

寒江郷に魅せられて

参　加　者　募　集

あ　い　さ　つ

呉羽山観光協会「旧北陸街道を歩く」
実行委員会長　田畑　宏継

呉羽山観光協会では、平成19年12月に実行委員会を組織し、旧北陸街道及び呉羽丘陵南北縦走の歴史探訪歩行会を開催してきたところであります。

この歴史探訪歩行会は、地域に住む人、働く人など多くの方々が参加し、計画から準備、実践までを行ってきているもので、今年7回目を迎えます。このことから参加される方は、地域の人をはじめ県内の各方面から集まられ、そして歩行コースの各見どころで解説を聞き新たな発見をされているところであります。

今年度は、呉羽丘陵の裾野から射水平野に広がる寒江地区を中心に、奈良、平安から室町時代末期まで荘園領となった寒江郷を歴史探訪するものであります。

この地区は、本郷集落をもと村として数か所の集落が栄えた地区で各集落に神社、仏閣が残り地区全体を豊かにしています。

このような身近な名所旧跡でありますが、各々が関係した事などを知る良きチャンスでもあります。

ぜひ多くの方々の参加を頂き寒江郷が私達の生活とどのように関わってきたかを体感して頂きたいものと考えております。

最後に、今回の歩行会実施にあたりまして寒江地区自治振興会をはじめ多くの方々からご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げ、挨拶といたします。

歩行会開催内容

と　　き	平成26年11月8日(土)
歩行区間	寒江小学校（スタート）～二上神社～富山藩と加賀藩境～三界萬霊（旧北陸街道沿い）～石黒岩次郎記念碑（銀ぼうずの発見）～願念寺～自得寺～本郷公民館（ゴール）（歩行距離約5.0Km）
集合・受付	富山市立寒江小学校（グラウンド）
場　　所	富山市本郷中部427番地
駐車場	路上駐車（係員の指示に従ってください）
参加費	1,000円/人(18歳以上の方のみ) 当日受付にて集金します
受付時間	午前8時45分まで
スタート時間	午前9時30分頃
所要時間	歩行時間　　約2時間30分
募集人数	約300名
おみやげ	歩行コースガイド、とやまの水（飲料水）、豚汁、地場産米（500g）
申込方法	添付ハガキに記入し、切手(52円)貼り投函して下さい 又は、Eメール:i-yama51@pk.ctt.ne.jpにて名前、人数、住所をお知らせください
申込期間	平成26年10月10日より20日まで
参加者へ	平成26年10月30日ごろまでハガキにて案内します
注意事項	①当日は小雨でも行いますが、雨天の場合は中止となります(問合せは、富山観光ホテルまでお願いします) 電話076-431-5111　富山市呉羽町7538番地 ②歩行会に相応しい服装(帽子・靴・バック)で願います ③歩行コースは、市街地で車などの交通量が多い地区です 30名あまりの班編成にて歩行します ④トイレの個所は、スタート地点、アルビス店、野口公民館、願念寺、自得寺、ゴール地点の6か所のみです

〈切取り線〉

郵便はがき

52円切手をお貼り下さい

930-0134

富山市呉羽町5010-12

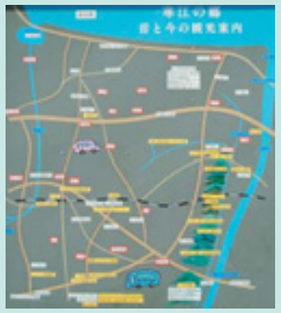
実行委員会事務局

山口五十一　行

寒江郷に魅せられて
参加申込書（代表者）

フリガナ ご住所	〒　-		
フリガナ お名前		年令	歳
電話番号	-　-	参加人数	大人　人 小人　人

寒江郷に魅せられて 見どころ表（第7回歴史探訪歩行会）

No 名称	場所	見どころ解説
寒江郷（庄）の概要		**（寒江郷のはじまり）** 「寒江郷」として文献に登場するのか奈良時代、天平勝宝4年（752）「越中国射水郡寒江郷戸主三宅黒人」として出てくる。 この時代の寒江郷は、射水郡に属し東側、八町、北代あたりまでを指すと言われている。 また「郷」とは、50戸ほどの集落を表し、里とも呼ばれた。  **（倉垣庄と共に下賀茂神社の荘園へ）** 平安時代初期の寒江郷は、西隣りに位置する倉垣庄とともに、白河上皇・堀川天皇の仏神事興行政策により上下賀茂社に各600町ずつ寄進された荘園の一荘となった。倉垣庄が寛治4年（1090）、寒江郷が寛治5年（1091）に下賀茂社領となり倉垣荘と呼ばれ、以降室町時代末期まで約500年間続いた。 倉垣荘の広さは、当初は30町（30km²）で、室町時代には年貢として200貫の地とされ現在の射水市海老江、堀岡地区から白石地区、戸破地区、黒河地区、富山市老田地区、八町地区、北代地区など射水市東部から富山市西部の48村に及んだ。 さらに江戸時代の資料（三州志）によると南北朝（1330～1390）の頃、現在の寒江本郷を本村として寒江地区、呉羽地区の14村が下賀茂社の荘園になったと言う。 倉垣荘の各村では加茂神社があるのが特色であるが、現在の寒江地区にはない。ただし北代に加茂社があり、初期の寒江郷が下賀茂社領であったなごりを残している。 **（荘園の移り変わり・崩れゆく荘園）** 初期の荘園は、奈良時代に律令制下で農地増加を図るため墾田私有を認めたことに始まる。 平安時代に、小規模な免田寄人型荘園（免税農地）が発達し、その後、皇室や摂関家・大寺社など権力者へ寄進する寄進地系荘園が主流を占めた。 鎌倉時代には、守護・地頭による荘園支配権の簒奪（さんだつ）が目立ち始め、室町時代になると中央貴族・寺社・有力武士・在地領主などの権利・義務が重層的かつ複雑にからむ状況が生まれた。 例えば、長禄2年（1458）寒江庄の代官誉田三河入道が年貢や人夫代銭を横領したこと。文明4年（1472）越中射水、婦負の守護代神保長誠が倉垣庄内に侵入し所領の拡大を図ったことなど。次第に荘園の崩壊が進んでいった。 戦国時代に入ると戦国大名による所領及び自治組織の郷村を含めた一国支配が進み、最終的に羽柴秀吉の全国的な検地により荘園が解体した。
①寒江本郷の二上神社	寒江本郷	 本郷の西北、鍛治川沿いに二上神社がある。ご神体は木造の観音様で高岡市の二上神社の分神と言われている。 この寒江の郷は、平地のため用水や排水の確保に苦しんでおり古くから地割をなしていた事がうかがえ、現在地名に蔵面坪、東坪などが残る。 これら一大事業に当たり西側に眺める二上山の二上神様の力を借りるため神社を建立したものと思われる。また本殿前の室町時代の狛犬がご神体とともに現在拝殿内に保管されており神仏混淆の特色が残っている。
②旧北陸街道の加賀藩との藩境	野町	 旧北陸街道は、野口の村はずれを超えて加賀藩の願海寺にはいる。JR北陸本線が出来たころは、交差部に「野口踏切」があって昭和初期ころまで番人が遮断機の操作をしていた。現在は通れないが、これを超えると願海寺の七曲りに差し掛かり藩境を迎える。圃場整備がなされ、藩境が明確でないが、地元では小さい水路をさして藩境と呼んでいる。 この藩境では、慶応4年3月（1868）に新政府軍、北陸道鎮撫軍総督が勅書に対する請書を求めて富山藩入りをした時、富山藩士森田三郎が野口の「願念寺」で待機し、藩境で出迎えたとされる資料も残っている。 現在、加賀藩の願海寺では北陸道鎮撫軍の総督、高倉永祐が小休した舟竹家の「賜金堂」の間が残っており、富山藩の野口願念寺では、「富山藩士が待機していた」と今も言い伝えられている。
③旧北陸街道の三界萬霊の碑	野口南部	 富山藩の藩境・野口は、旧北陸街道（富山往還道）が通り、西へ願海寺、小杉を経て高岡に至る。 街道沿いの村はずれに古い地蔵尊（高さ1.7メートル）がブロック塀に囲まれて立っている。天保4年3月(1833)の造りで台石に「三界萬霊」と刻まれている。 地元の人は、この道を「往還」と言っており、昔から道筋にあって旅人の安全と道標の役目をもっていたものと思われる。
④「銀坊主」の生みの親・石黒岩次郎	野口南部	 野口の北陸本線の踏切のわきに石碑が建つ。明治時代は良い稲株を選り分けて品種改良を行った。野口に住む石黒岩次郎は、家の前で試験田を作るなど稲の品種改良に20年もの年月を費やし努力を重ねていた。ある時田んぼの一株にすっくと立っている稲を見つけ、モミの多さ、株の根張りなどに優れた品種を発見し、これを「銀坊主」と名付けた。その後、またたく間に全国や朝鮮までに広がったが、これを知らずに63歳の生涯をとじた。昭和3年、町田忠治農林大臣の手により岩次郎の功を讃える石碑が建てられた。
⑤藤白山願念寺	野口	 藤白山願念寺と称するが、古文書によると、次の話が寺伝として語られてきている。 もとは応永11年（1404）、新川郡布施川で開基した真言宗憲念寺で、その後現在の野口村に移転した。 宝徳元年（1449）憲誓住職のとき、蓮如上人が11日間滞在され、その時いろいろ教えを受けた住職は、願憲の名を頂いた。その後、応仁の乱のとき、江州堅田に避難されていた蓮如上人を訪ね7日間の教えの中で、浄土真宗に宗派替えされ願念寺の寺号を受けた。 願念寺は、上杉謙信の越中攻めと豊臣秀吉の佐々成正攻めのとき、2度焼火を浴び多くのものを失っているが、地元住民など関係者の篤い信仰心により支えられてきている。 また旧北陸街道（富山往還道）に面し、さらに加賀藩と富山藩の境界付近であったことから次のような話も残されている。 慶応4年(1868)1月、鳥羽伏見の戦いで勝利した新政府軍は、徳川慶喜追討令の勅書を発し、各藩主に請け書を求めた。 3月10日、北陸鎮撫使節総督、高倉永祐が富山藩入りをした時、富山藩士約40余人が藩境の野口で出迎えたという。その時の様子を藩士の一人森田三郎が日記に「願念寺で待機していた」と書き記している。
⑥常在山自得寺	本郷中部	 常在山自得寺は、曹洞宗の名刹で大本山總持寺の直末である。もと真言宗寺院で創立は建徳年中（1370～1371）。開基は、権大僧都竜恵法印で、開山は法印入滅後の応安7年（1374・北朝の年号、建徳と同年代）、本山總持寺四世無際禅師を懇請して始祖とした。 この時に、真言宗から禅宗の曹洞宗の寺院となった。 寛永14年（1637）に、加賀藩三代藩主前田利常から1200歩の領地を拝領した。明治3年の合寺令により、伽藍等が取り壊されたが、同5年に梵鐘、法器、一切経などが復元された。
⑦蓮台寺の戦い	大塚	宝物に延命地蔵石仏坐像（33年に一度御開帳）、聖観世音木像立像、俄山禅師遺品（無際禅師は総持寺二代俄山禅師の高弟）の柱杖などがある。 また境内に高さ2mに及ぶ南北朝時代の宝篋印塔があり、自得寺の当時の隆盛を表している。 室町時代、永正3年（1506）越中の射水郡と婦負郡守護代であった神保慶宗と越後の長尾能景との戦いで一向宗の拠点となっていた大塚蓮台寺が舞台となる。蓮台寺は焼失したが、のちに松長彦々神、蓮台王の墓が建てられたと伝わっている。
⑧瀧口修造の墓	大塚	詩人で美術評論家である瀧口修造（1903～1979）の墓が大塚・竜江寺の境内に建っている。 富山県婦負郡寒江村大塚で3人姉弟の長男として生まれる。家は医者であったが、医者にはなりたくないと1921年富山県立富山中学校（現富山高校）卒業後、上京する。 1931年　慶應義塾大学英文科卒業 　　翌年、PCL映画製作所（現在の東宝）に入社 1935年　妻・綾子と結婚 1979年　死去 瀧口の所持していた一万点に及ぶ美術資料は、多摩美術大学にて瀧口修造文庫として保存されている。 瀧口修造は、詩作と美術評論を軸に、戦前はシュルレアリスム（超現実主義）を日本に紹介した一人として、戦後は国内外の前衛的な芸術表現を見つめ、擁護した存在として知られている。 富山県近代美術館には、国内外の作家たちから贈られた様々な作品と、親しかった誰かの旅の土産や瀧口が拾ったかもしれない石ころ、貝殻などが「瀧口修造コレクション」として収納されている。